

短期大学保育学生の自己効力感の変化

— 保育所実習後の自己評価と他者評価 (園評価・担当者評価)の関係を通じて —

澤津まり子, 堤 幸一 (就実短期大学)

The Change in Junior College Child Care Students' Self-Efficacy:
Through the Relation between Self-Evaluation and Evaluation
from the others (Nursery Teacher's and The Person in Charge' on Training).

Mariko SAWAZU, Kouichi TSUTSUMI (Shujitsu Junior College)

抄 録

堤らは、専門的な知識・技術を実践的に学習する場として、学生のボランティア活動を推奨・支援するとともに、2007年以来、それらの活動のより効果的な支援のための基礎的研究も続けてきた。これまでに、保育系ボランティア活動への参加動機と継続動機に関して、学生は、ボランティア活動を社会貢献・自己啓発の機会として捉え、自発的・主体的に取り組むべきものと考えていること、ボランティア活動への参加・不参加決定の具体的な要因は、活動内容をどの程度知っているかやボランティア自体への興味の強さであること、などを報告した。2009年からは、支援研究の一環として、これらの活動への継続的な参加が学生自身へもたらす効果について、自己効力感を指標として分析を開始した。その第1段階として、自己効力感の増加は保育実習経験によって増加すること、積極性、情緒安定性、社交性といった性格特性とも深く関連していることを報告した¹⁵⁾。今回は第2段階として、保育所実習後の自己効力感の増加の実体を、実習成果についての学生の自己評価・実習園の評価・実習担当者の評価の3つの評価を用いて分析した。その結果、「意欲」の評価項目についてのみ、3つの評価で正の相関がみられたこと、自己効力感の増加は、学生の「意欲的にできた」という自己認知がその大きな要因であると推測されること、そして、意欲以外の項目では、学生の自己評価は他者評価（実習園の評価、実習担当者の評価）と相関がみられなかったことから、主観的で妥当性の低い評価基準に基づいていると思われること、さらに他者評価はそれぞれの対応項目でも高い正の相関を持つことから、類似した評価基準に基づいていることを見いだした。

キーワード：自己教育力、自己効力感、保育所実習、自己評価、他者評価